

- ・褐斑病強耐病性・高収量キュウリ「グラッヂェ」登場
- ・神川農場初夏フィールドデー開催
- ・2016年度日本土壤肥料学会佐賀大会
- vol.2 ④ 地域レポート

褐斑病強耐病性・高収量キュウリ「グラッヂェ」登場



○キュウリ品種開発の背景

近年、キュウリ産地において問題になっている病気に褐斑病がある。この病気は糸状菌（かび）が原因となり葉に淡褐色・円形の小斑点を生じ、次第に拡大して中央が灰褐色で輪紋のある不整形の斑点となり、放っておくと株全体に病気が拡がり枯死する（下の写真参照）。現在は薬剤散布による予防と排水対策を良くするため高畝にしたり、株間を広げて株数を減らす等の対策を取っている。この現状を打破すべく当社はキュウリの褐斑病耐病性を持つ品種開発を進めてきた。そこで開発されたのが今回紹介する「グラッヂェ」である。

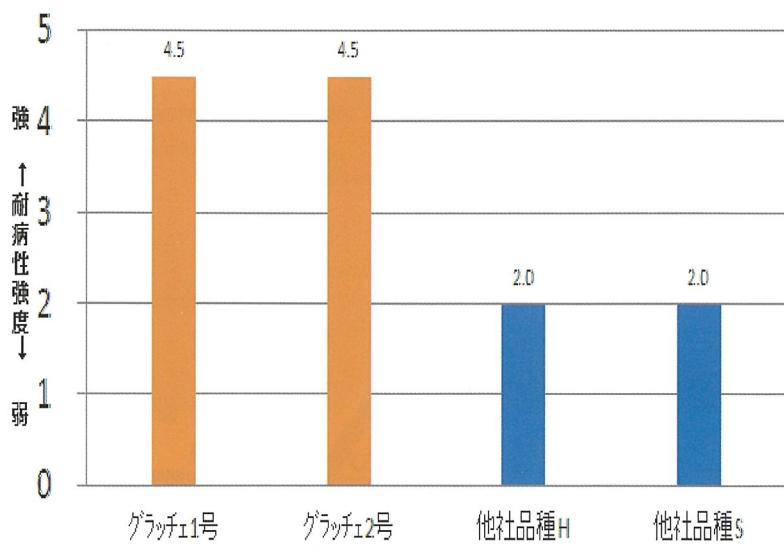


○グラッヂェの特徴

グラッヂェは促成・半促成栽培に適する摘芯栽培用品種である。最大の特徴は、褐斑病に強い耐病性があるので従来の品種より作りやすく、安心して栽培できるという点にある（下のグラフ参照）。また、生育後半まで草勢が旺盛なので多収性である点も特徴である。

果実については果色が濃くみずみずしく、歯切れが良く生食でも漬物でもおいしい。果形は後半になっても崩れにくく安定している。

接種試験による褐斑病耐病性調査



褐斑病に罹病したキュウリの葉

○グラッヂェ1号・2号の使い分け

グラッヂェはその用途により1号・2号で使い分けが可能である。果実の長さが21~22cm程度であれば1号を22~23cm程度であれば2号を使用する。各産地により選果基準に幅があるので品種により果実の長さに差を設けることで幅広い産地にもグラッヂェを使用できる。

○今後のキュウリ開発の展望

当社品種開発の強みは耐病性品種の開発である。今後キュウリ耐病性品種には褐斑病はもちろん、うどんこ病やべと病等キュウリの代表的な病害に対する複合耐病性の品種開発を行い、より安心して作りやすい品種開発を目指していく。

神川農場初夏のフィールドデー開催

活気づく神川農場 —

神川農場が始動して4度目の初夏を迎える毎年恒例となったフィールドデーが開催された(5/31～6/2)。回を追うごとに来客される方も増えてきており、当社品種PRの絶好の機会となっている。



来場者に品種PRをする農場スタッフ

年度初夏のフィールドデーも300名を越える来客数が地元埼玉県をはじめ関東各県より来訪された。お客様に当社農場スタッフがハウス・露地各圃場を案内し、当社品種の紹介をさせていただいた。皆様熱心に見学し、疑問に感じられたことをその場で当社スタッフに尋ねられていた。このように、普段品種開発に携わっている農場関係スタッフ達が、当社品種に対してご意見・ご要望いただけたことを参考に今後の品種開発に活かしていくように努力していく。

〒367-0232

埼玉県児玉郡神川町大字新里字東北原863-2
(朝日工業㈱関東工場から車で約10分)

●お車でお越しの場合

関越自動車道 本庄児玉インターチェンジより車で約20分
マップコード 20133425*3

●電車でお越しの場合

上越・長野新幹線 本庄早稲田駅下車 タクシーで約25分



来場客を出迎える野菜達

○2016年度初夏朝日工業フィールドデーについて

2016年度朝日工業フィールドデーは5/31～6/2の3日間で開催された。今回は、大玉トマト新シリーズ「有彩(ありさ)」を始め、カボチャ「プリメラ」やキュウリ「グラッヂェ」等最新品種に加え従来販売品種や現在開発中の品種を紹介した。

○フィールドデーの狙い

一年で一番多く当社の品種が見ることができるとあって回を追うごとに来客されるお客様も増えており、2016

年も初夏のフィールドデーも300名を越える来客数が地元埼玉県をはじめ関東各県より来訪された。お客様に当社農場スタッフがハウス・露地各圃場を案内し、当社品種の紹介をさせていただいた。

皆様熱心に見学し、疑問に感じられたことをその場で当社スタッフに尋ねられていた。このように、普段品種開発に携わっている農場関係スタッフ達が、当社品種に対してご意見・ご要望いただけたことを参考に今後の品種開発に活かしていくように努力していく。



2016年度日本土壤肥料学会佐賀大会

2016年度9月20日から22日の日程で開催された日本土壤肥料学会佐賀大会において、「混合堆肥複合肥料の開発とこれから」というテーマでシンポジウムが行われました。このシンポジウムではJA全農、九州沖縄農業研究センター、岐阜県農業技術センター、岡山県農業総合センター、朝日工業株式会社の5機関が発表しました。それらの発表は混合堆肥複合肥料の製造や試験、流通等、様々な内容から構成され、発表後、参加していただいた多くの方々と活発な討議が行われました。朝日工業からは「混合堆肥複合肥料の開発の経過」という内容でエコレットをPRし、今回のシンポジウムに参加することで更なる課題を得る事ができました。

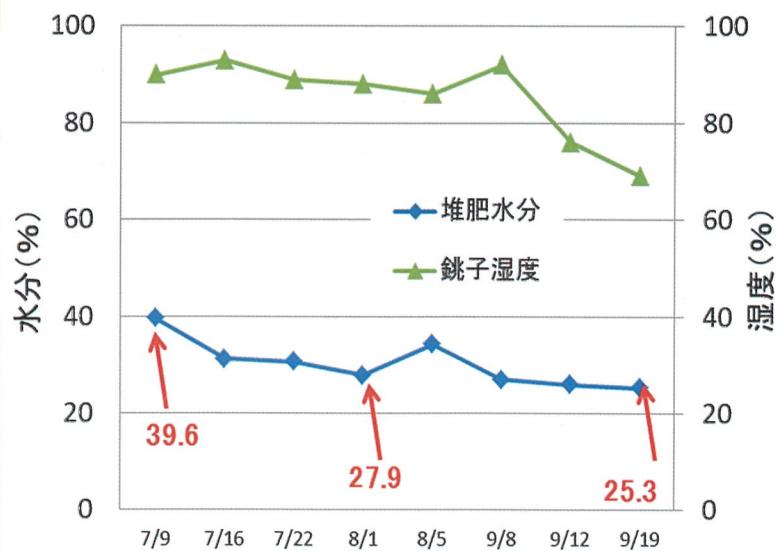
朝日工業は混合堆肥複合肥料のリーディングカンパニーとして、「エコレット」をより良い商品にしていくために、今後も努力していきます。



シンポジウムの様子

朝日工業の発表内容（一部）：「混合堆肥複合肥料の開発の経緯」

堆肥を肥料原料として利用するための技術を中心に発表しました。特に、原料堆肥として求めている基準や現在までの取り組んできた技術を紹介しました。



2次堆積処理による堆肥の水分変化

地域レポート

抜群のうまさを誇るスイートコーン

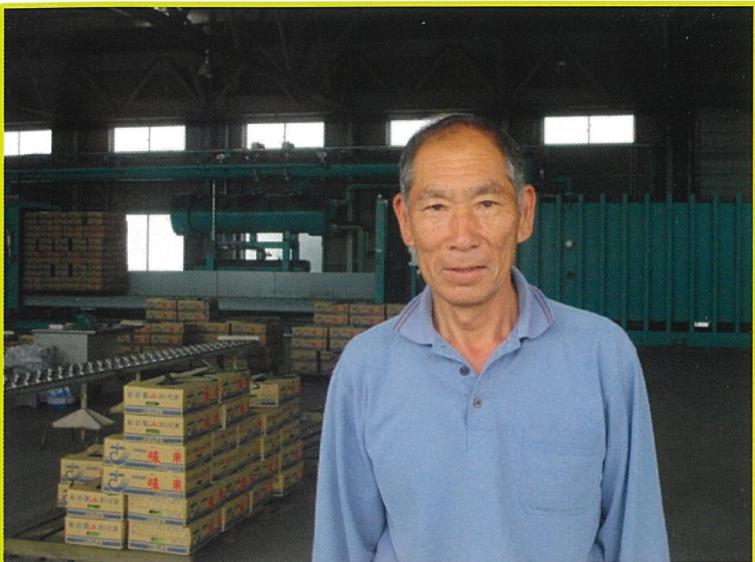
“味来”栽培し続け20年のJA榛沢



○JA榛沢における味来の役割

JA榛沢は埼玉県北西部に位置し、東側は熊谷市西側を本庄市に接している地域で、野菜・畜産とともに盛んである。その中でも特にブロッコリーの一大産地として品質の良さで全国的にも名高い。日本一を目指して熱心に堆肥を施用した膨軟な土壤でブロッコリーの間作に栽培されているのがJA榛沢のスイートコーン“味来”である。JA榛沢においてスイートコーンといえば味来という程深く浸透している。

味来とブロッコリー栽培を輪作する事で連作障害を回避し、土壤中に過剰に蓄積した養分の吸収と土壤環境を整えることに役立っている。



榛沢一元出荷協議会とうもろこし部会田嶋部会長

○JA榛沢の味来栽培

味来390という品種が発売されてから今年で20年目となる。現在は極早生～晩生まで味来シリーズのラインナップが充実している。生産者は気候・作型に適した様々な品種を組み合わせて6～8月期収穫の味来を栽培している。

今回、お話を聞かせていただいた田嶋部会長も味来を状況に応じて使い分け高品質の味来を栽培している。田嶋部会長の今期の味来栽培は2月からスタートした。使用した品種は味来早生130、味来390、味来14の順番で栽培した。土づくりにおいても有機入り肥料「BM有機みらい」を元肥として10aあたり8袋、追肥として10aあたり2袋施用している（窒素成分で26kg）。本年度は高温により出荷が早まったが順調に生育は推移していく、最盛期には一日当たり150ケース（1,950本）出荷した。また、榛沢一元出荷協議会全体では多い時に一日当たり6,500～7,000ケース取り扱っていた（担当者談）。

田嶋部会長に今後味来を作り続けるに当たって望むことを伺った。「温暖化による生理障害に耐えうる品種を目指して欲しい。」という言葉をもらった。

最高を目指すJA榛沢が求める高品質の味来を栽培し続ける為、朝日工業は高品質の品種の育成・肥料の開発に取り組んで参ります。



味来出荷風景



味来14とJA榛沢の味来畑